

第1回 第二次いわき市都市計画マスタープラン等策定委員会

議事要旨

■ 日時

平成29年8月30日 14:30～16:20

■ 場所

いわき市文化センター大会議室（4階）

■ 出席者

・ 委員（23名）

・ 瀬戸委員 ・ 齊藤委員 ・ 芥川委員 ・ 蛭田委員 ・ 林委員 ・ 石井(敦)委員
・ 越智委員 ・ 武田委員 ・ 鈴木委員 ・ 安島委員 ・ 青木委員 ・ 門馬委員
・ 佐藤(光)委員 ・ 佐藤(孝)委員 ・ 山野辺委員 ・ 田子委員 ・ 石井(重)委員
・ 田中委員 ・ 坂井委員 ・ 半澤委員 ・ 森藤委員

・ オブザーバー

・ 東北地方整備局都市・住宅整備課 課長 小林 孝
・ 福島県土木部都市計画課 課長 諏江 勇

・ 事務局

都市建設部都市計画課

・ その他

報道関係、委員随行者等

■ 会議の流れ

1 開会

・ 司会より開会の宣言

2 委員等の紹介

・ 事務局（都市計画課）より紹介

3 会長・副会長選任

・ 委員の互選により会長を齊藤委員に選任し、会長指名により副会長を安島委員に選任
・ 齊藤会長より挨拶

4 講話「立地適正化計画について」

・ 国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備 小林課長より説明

5 協議

(1) いわき市第二次都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定について

・ 事務局（都市計画課）より説明

(2) 都市構造の現況と将来予測について

・ 事務局（都市計画課）より説明

6 その他

次会委員会は、今後、事務局より提案

7 閉会

■ 委員からの主な意見等（要旨）

・ 意見等（委員）

コンパクトシティは、住民を郊外から都市部へ集中化させることを目的としている一方で、立地適正化計画では、無理に集中化させるものではないとしており、そこにコンパクトシティの難しい本質があると思う。これをやると必ず切り捨てられる方がでてくるが、これを切り捨てないでやっていくということは、これは矛盾でしかなく、国家財政が厳しい中で、全部を救うなんてことはあり得ないわけで、これが行政の方々が悩むところだと思う。行政には、計画を進める中で困る人が必ず出てくることをしっかりと認識して欲しい。

- ・ **意見等（委員）**

資料の中の徒歩圏 800m の距離を徒歩で行く人はいないのではないか。この区分はどういった意味で分けられているのか。これは同規模の 30 万人都市と単純に数値比較をするためのものなのか。

⇒ **市の考え（事務局）**

徒歩圏の 800m というのは、国土交通省で策定している手引（「都市構造の評価に関するハンドブック」国土交通省都市局都市計画）で定めたものになります。この数値が現実的かどうかは、今後、追求していきたいと考えております。

- ・ **委員等（委員）**

レーダーチャートを見ると課題は、人口密度が低いことから偏差値が低くなるとしているが、数値目標として人口密度を上げるのか、レーダーチャートの偏差値 50 以下の項目を改善するのか、あるいは、特定のものを改善させるのかを考えていくことが必要ではないのか。

⇒ **市の考え（事務局）**

レーダーチャートについては、30 万人都市の平均から見たマイナス部分について考えるだけでなく、例えば若者の人口流出の問題もあるように、多面的な目を持っていわきの将来都市像を委員の皆様と議論していければと考えております。

- ・ **委員等（委員）**

いわき市を元気にしていくには、人口減少問題や高齢化問題について考えていかななくてはならない。その上で、データーを比較する際に、いわき市の特徴にあった比較を適切にしないと方向性を間違うと考えられる。

■ 会議の様子

